

Windows NT サーバを用いた 3 層 C/S にて 全社購買システムを構築

新たな経営ニーズに対応するための近代化プロジェクトに大きく貢献

東レ株式会社

住所 滋賀県大津市

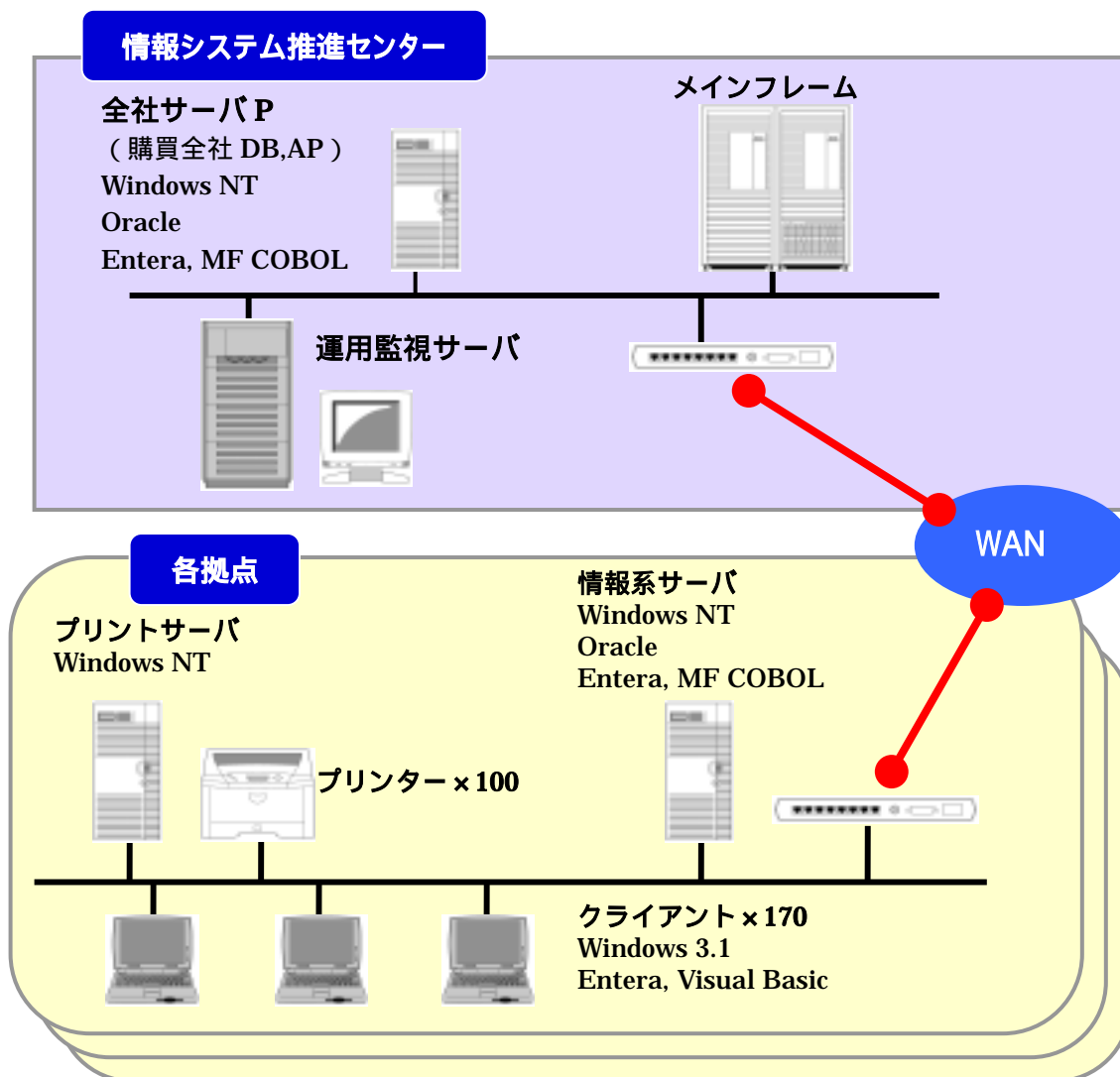
業種 総合化学メーカー

なぜ Entera か？

Entera の 3 層構造概念が近代化のアプリケーション構造と合致すること。

Entera は開発言語に COBOL をサポート（伝票中心の手続型事務処理の特性、既存ソフトウェア資産の活用から COBOL を選定）していることも採用の要因であった。

システム構成図



× 15 拠点（本社・工場・研究所）

ユーザーコメント

株式会社東レシステムセンター

第一システム事業部 佐々木良彰氏

「東レの全社購買保全システムを構築するうえで、3層アーキテクチャ + Entera を採用することにより、大規模 WAN の環境配下においても事務処理の精度とレスポンスを大幅に向上させることを実現可能にしました。」

システム概要

全社購買システム

新事業分野・製品への対応、顧客要求の変化への柔軟な対応、業務改善・業務効率化の支援、事業戦略策定のタイムリーな支援、システム構築・運用の効率化。

業務面：業務標準化の推進（業務システムの統合・業務仕様の標準化）、事務処理精度向上・スピードアップ（工場本社間のリアル連携・バッチ処理の極小化）、情報の高度活用（購買情報の一元化・EUC 環境の整備）

システム面：ハードウェアコストの圧縮、ダウンサイジング環境での技術基礎実証（オープンなプラットフォーム・アプリケーションの 3 層構造）、データ中心のアプローチ（ソフトウェア部品と情報資源管理の採用）

導入経過

H.7 年 8 月～開発着手

H.8 年 9 月～第 1 稼働開始

H.9 年 4 月～全拠点展開開始（全国 15 拠点・45 部署 / 本社・工場・研究所）

導入効果

制御部分の自動生成によりビジネスロジック部分の記述が単純化できるため、開発生産性に留まらず、保守生産性も優れている。実際には、C/S 間の調整・設計・製造・試験についての作業が一切不要となった。また、データ量増加・拠点統廃合などの物理的な構成を変更する際の対応が容易であるため、運用下においても環境の変更・調整がスムーズに行えた。定量的効果としては、開発・保守生産性が従来比の約 1/3、処理のレスポンスが従来比の 1/2 のスペックを実現できた。今後は、ERP、EDI、DWH との連携期待が高まる。

今後の課題

計数系基幹システムと非計数系システム連携

（電子決済、購買伝票の依頼元での入力・ワークフロー化）